

～人身被害を防ぐために～

◎ お出掛け先は、クマの生息地？

ハイキングや山菜採り、溪流釣りに出掛ける時には、そこにクマが生息している地域であるか、最近出没の情報があったかなど、予め確認することが必要です。出没の情報は、インターネットで容易に見つけることができるので、公的機関の情報や信頼できるホームページの情報を利用しましょう。

◎ クマの生息地に入るには、きちんとした準備を怠らずに！

クマの生息地に入る場合には、クマよけ鈴（一般的な鈴は、遠くまで鈴の音が届きません。アウトドア専門店などで販売されている「クマよけ」専用のものが、価格は高め（1,000円～程度）ですが、音がよく響きます。）や携帯型のラジオ（予備の電池をお忘れなく！）など音が出るもので、自分の存在をクマに知らせる工夫をしてください。



子グマを見つけたときに、かわいいからといって不用意に近付くことは絶対にしないでください。子グマの近くには必ず母グマがいて、子グマの危険を感じて人間を攻撃してくるおそれがあります。子グマを見かけたら、周囲に気を配りながらその場からそっと立ち去るようにしてください。

また、生ゴミをキャンプ場やハイキングコースに放置することも、それを食べたクマなどを、思わぬ“餌付け状態”にしてしまい、「危険」なクマを生み出すことにつながりますので、絶対にやめましょう。

～クマを人里に誘引しないために～



ハイキングやキャンプで山に捨てられた残飯を食べたクマは、人間の食べ物の味を覚えてしまい、やがて人里に出没するようになります。



クマの生息地付近の民家では、生ゴミを屋外に置くと、クマをおびき寄せる結果を招くことがあります。



同様に、庭先の果物もクマの大好物です。クマをおびき寄せてしまうことがあります。

人間を怖れない危険なクマをつくらないために…

残飯を山に捨てず、必ず持ち帰りましょう。



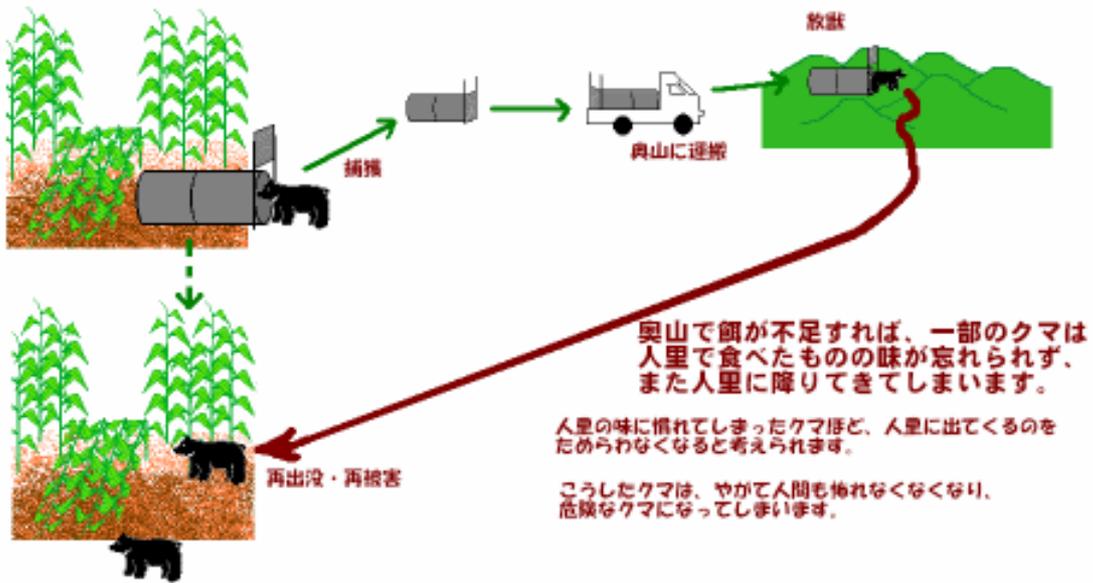
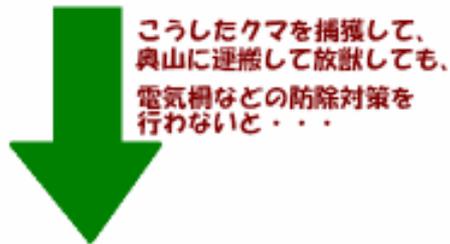
生ゴミを屋外に置かないようにするか、野生動物対策用のゴミ箱を設置しましょう。



果樹を切ってしまうことも検討しましょう。



～クマの捕獲をしても、被害地がそのままでは・・・～



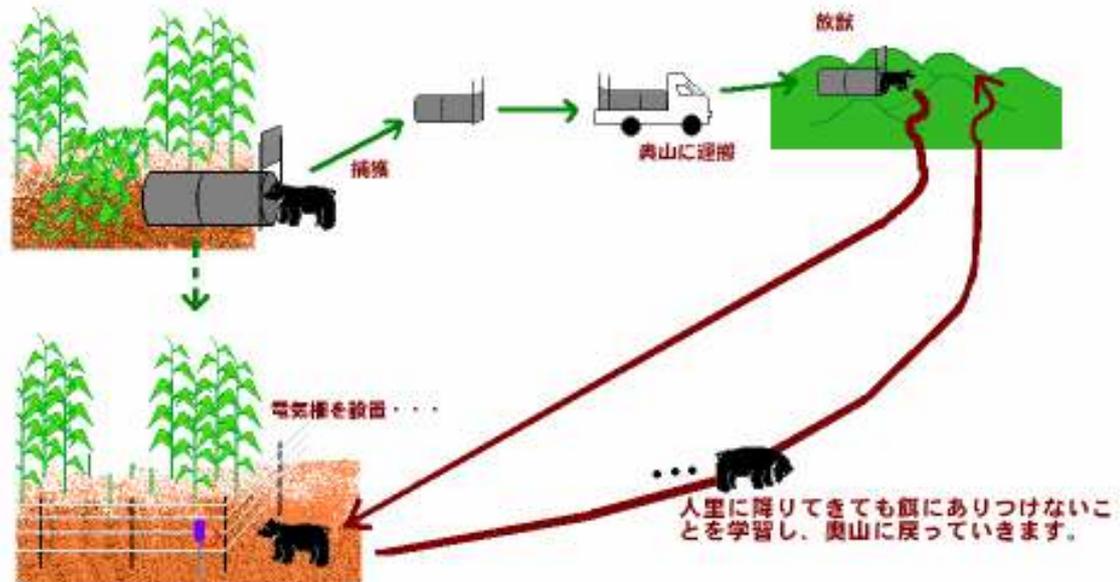
また、捕獲・放獣したクマとは別のクマも人里に降りてきてしまうことになります。

このため、たとえ捕獲したクマを殺処分しても、一時的に出没や被害が軽減されるだけで、根本的な解決には結びつきません。



～被害が出たら、防除対策が大切～

電気柵を設置すると・・・



県の試験研究で、簡易な電気柵(↓)での被害防除効果が確認されています。

